



ウェブアクセシビリティ基盤委員
会

アップデート Webアクセシビリティ

- Webアクセシビリティの最新動向 -



このセッションでお話すること

1. Webアクセシビリティってなんですか？
2. Webアクセシビリティのガイドライン
3. Webアクセシビリティと社会状況／法規制について
4. Webアクセシビリティの取り組み方
5. 今後のWebアクセシビリティの動向

主催者と登壇者紹介

- ウェブアクセシビリティ基盤委員会

- 日本におけるウェブアクセシビリティの公的規格であるJIS X 8341-3の理解と普及を促進するとともに、JIS X 8341-3を利用してウェブアクセシビリティを高めていくために必要な基盤を構築するために、さまざまな活動を行っています

- 登壇者

- 小林 大輔 (サイボウズ(株))
- 倉科 宏行 (グローバルデザイン(株))
- モデレータ
守谷 絵美 (ウェブアクセシビリティ基盤委員会)



1. Webアクセシビリティってなんですか？

Webアクセシビリティとは

だれもがWebコンテンツを利用できる品質

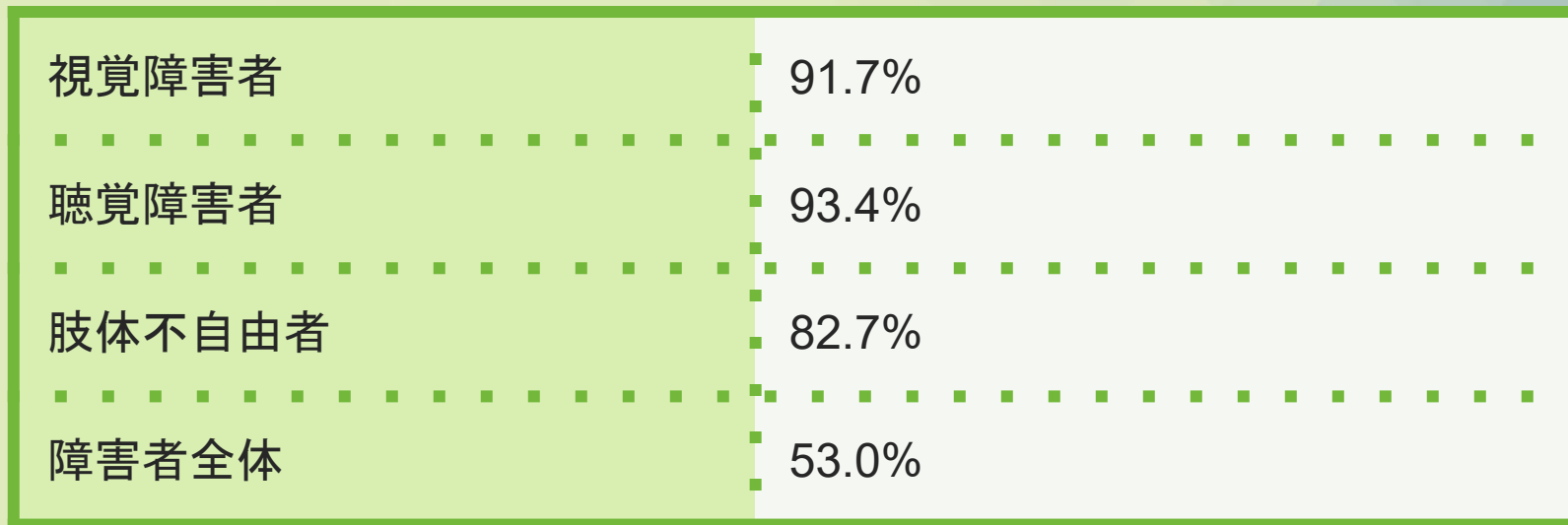
ウェブのアクセシビリティを言い表す言葉がWebアクセシビリティです。具体的にはウェブページにある情報や機能の利用しやすさを意味します。

さまざまな利用者が、さまざまなデバイスを使い、さまざまな状況でウェブを使うようになった今、あらゆるウェブコンテンツにとって、Webアクセシビリティは必要不可欠な品質と言えます。

[引用：アクセシビリティとは？- ウェブアクセシビリティ](#)



障害者のインターネット利用率

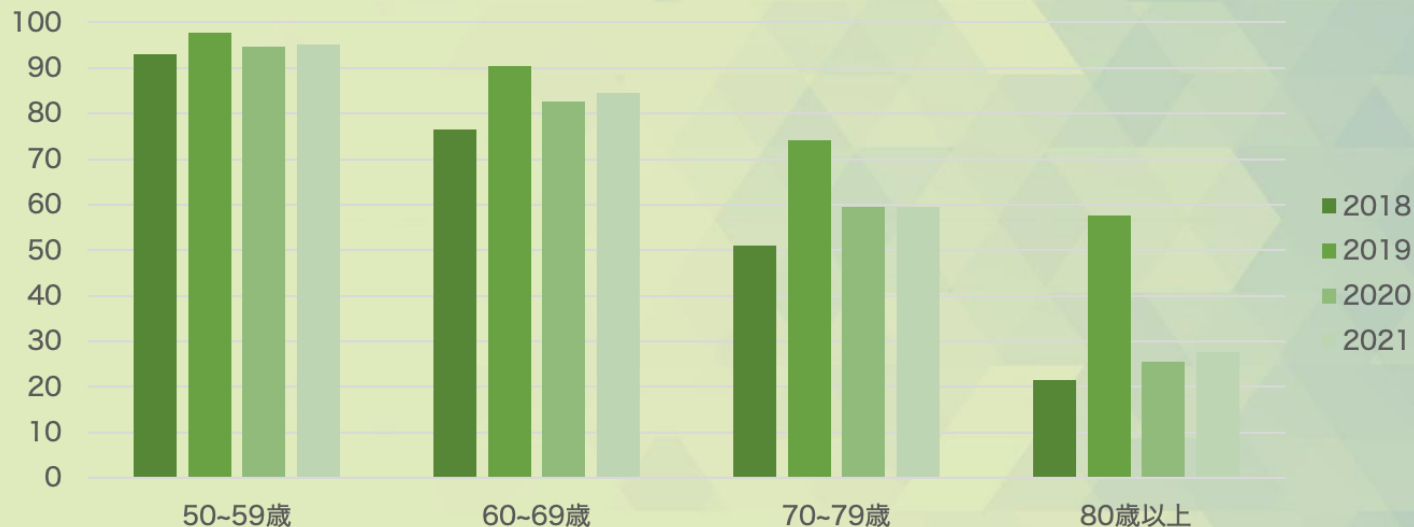


障害者によるインターネットの利用率：NICT（平成24年）

高齢者のインターネット利用率

65歳以上の人口は3621万人。総人口の28.9%。

出典：令和4年版高齢社会白書



さまざまなデバイスに対応できる

アクセシビリティを高めると多様なデバイスに対応しやすくなる



パソコン



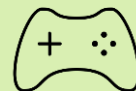
スマホ
タブレット



印刷



ウェアラブル



ゲーム

2. ガイドライン

JIS-X 8341-3:2016

高齢者・障害者等配慮設計指針
情報通信における機器ソフトウェア及びサービス
第3部：ウェブコンテンツ

JIS

高齢者・障害者等配慮設計指針－
情報通信における機器、ソフトウェア及び
サービス－第3部：ウェブコンテンツ

JIS X 8341-3:2016
(ISO/IEC 40500:2012)
(WAIC/JSA)

平成 28 年 3 月 22 日 改正

日本工業標準化協会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権は JIS X 8341-3:2016 の権利者、規格番号は JIS X 8341-3:2016 である。



達成基準を満たす方法（例）

- ページの内容が分かるページタイトルを記述する
- 見出しやリストなどの文書構造をマークアップする
- 情報を伝えている画像の代替テキストを提供する
- フォーム・コントロールのラベルをマークアップする
- 文字色と背景色のコントラストを十分に確保する
- 色の違いが分からなくても理解できるようにする
- キーボードのみで操作できるようにする
- 動画には字幕を提供する

国際規格との統一性

WCAG: W3C（Webの標準化団体）が定めたガイドライン

ISO/IEC 40500:2012: 国際標準化機構が定めた規格



WCAG 2.0

JIS X 8341-3:2016

**ISO/IEC
40500:2012**

3. 社会状況／法規制について

国内の法整備について

障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法

障害者による情報の取得利用・意思疎通に係る施策を総合的に推進し、共生社会の実現に資するための法律（令和4年5月25日施行）

障害者差別解消法の改正

障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とした法律の改正に伴い、事業者による障害のある人への合理的配慮の義務化がされた（令和6年4月1日施行）

各省庁の取り組みについて

スクリーンリーダーで順に読み上げたときに、意味が通じる順序になっている

目が見えている人はウェブサイトを斜め読みして欲しい情報を見つけることができますが、スクリーンリーダーの場合は、キーボードを使ってページの先頭から1つ1つリンクや文章をたどって内容を聞いていきます。このとき、文章の意味と読み上げ順序が整合していないと内容を正確に理解できなくなってしまいます。スクリーンリーダーは、HTMLのソースに記載されている順、視覚的には左上から右下に向かって読み上げます。この順序を考慮してコンテンツやサービスを設計してください。



図3.9 文字間隔の調整に空白文字（スペース）を使うと、スクリーンリーダーで正しく読み上げられないことがある



図3.10 ボタンの前に同意事項が読み上げら

WCAG2.0 達成基準：[1.3.1 | 情報及び関

デジタル庁
ウェブアクセシビリティ導入
ガイドブック

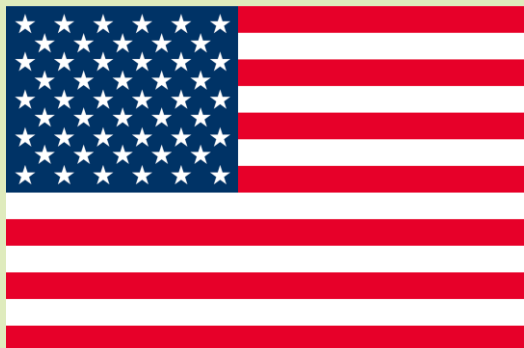
みんなの公共サイト
運用ガイドライン
(2024年版)

総務省
みんなの公共サイト
運用ガイドライン

義務化されるのか

オンラインでの申込手続きが必要な場合に、手続きを行うためのウェブサイトが障害者にとって利用しづらいものとなっていることから、手続きに際しての支援を求める申出があった場合に、求めに応じて電話や電子メールでの対応を行う（合理的配慮の提供）とともに、以後、障害者がオンライン申込みの際に不便を感じることをないように、ウェブサイトの改良を行う（環境の整備）。

海外の法整備状況



リハビリテーション法508条

政府機関向けの情報アクセシビリティを義務とする法律

障害を持つアメリカ人法（ADA）

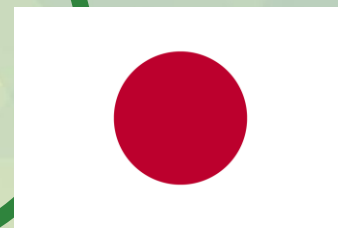
州政府・地方自治体・広く市民を対象とする企業向けの
アクセシビリティ全般を義務とする法律

その他の動き

VPAT



日本版
VPAT
※これから



VPATとは：

サービスがアクセシビリティ規格をどの程度満たしているのかを公開するための様式
製品・サービスを購入する際に対応度合いを参照することが可能

企業の動き



Web Accessibility Infrastructure Committee
**ウェブアクセシビリティ
基盤委員会**

[ホーム](#)[基礎知識](#)[ガイドライン](#)[Q&A](#)[セミナー](#)[参考資料](#)[ニュース](#)

[ホーム](#) > [参考資料](#) > [実態調査](#) > 一般企業におけるウェブアクセシビリティ方針策定と試験結果表示の実態調査（2019年2月）

一般企業におけるウェブアクセシビリティ方針策定と試験結果表示の実態調査（2019年2月）

本委員会では、[JIS X 8341-3:2016 関連文書](#)、[JIS X 8341-3:2010 関連文書](#)を公開しています。一般企業のウェブサイトにおけるウェブアクセシビリティ方針の策定と試験結果の表示について、8度目の実態調査を行ないました。調査対象については[公益社団法人日本アドタイザーズ協会 Web広告研究会](#)にご協力いただき、その会員社（2019年2月時点）の224サイトを対象にしました。



4. Webアクセシビリティの取り組み方

どう取り組む？

アクセシビリティ方針を定めてJIS 8341-3への準拠を目指す

WAICの公開しているガイドライン（一部）

- ウェブアクセシビリティ方針策定ガイドライン
- ウェブコンテンツのJIS X 8341-3:2016 対応度表記ガイドライン
- JIS X 8341-3:2016 試験実施ガイドライン

サイボウズの取り組み

サイボウズのパーパス

チームワークあふれる社会をつくる

サイボウズにとってのアクセシビリティ

ユーザーがチームにアクセス（参加・貢献）できる能力

サイボウズの取り組み

社内啓発

全社研修や勉強会などを通じて、
アクセシビリティの重要性やノウハウを啓発する

製品改善

アクセシビリティの試験を行うとともに
障害当事者の意見を伺いながら、製品の問題点を改善する

パーツを組み合わせるだけで
アクセシビリティの品質を確保できるようにする

グローバルデザインの取り組み

ポリシー

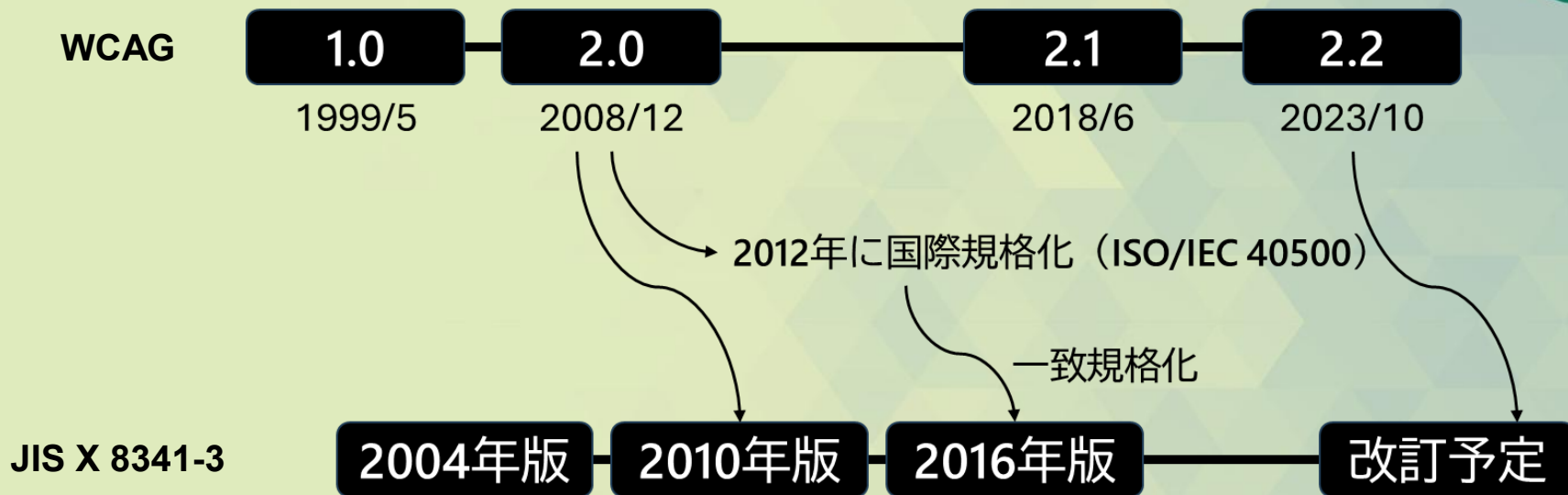
必要な情報をきれいにわかりやすく最適な方法で。

取り組んでいること

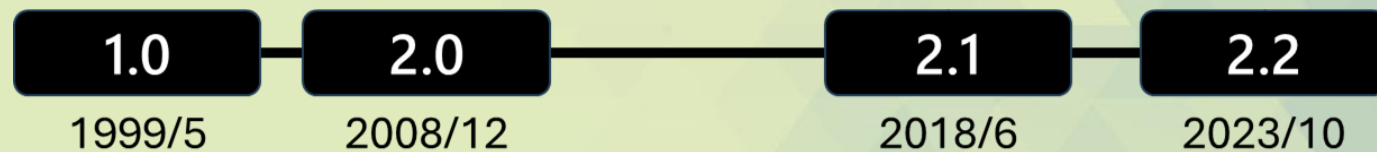
自治体ウェブサイトの構築におけるウェブアクセシビリティの向上

5. 今後のWebアクセシビリティの動向

今後の動向



WCAG 2.0とWCAG 2.2の違いは？



WCAG 2.0とWCAG 2.2の違いは？

WCAG 2.2 早見表 (レベルA & AA)

¹⁾ WCAG 2.1 で新たに追加されたもの

²⁾ WCAG 2.2 で新たに追加されたもの

1 知覚可能

1.1 テキストによる代替	
1.1.1 非テキストコンテンツ	A
1.2 時間依存メディア	
1.2.1 音声のみ及び映像のみ (収録済)	A
1.2.2 キャプション (収録済)	A
1.2.3 音声解説、又はメディアに対する代替 (収録済)	A
1.2.4 キャプション (ライブ)	AA
1.2.5 音声解説 (収録済)	AA
1.3 適応可能	
1.3.1 情報及び関係性	A
1.3.2 意味のあるシーケンス	A
1.3.3 感覚的な特徴	A
1.3.4 表示の向き ¹⁾	AA
1.3.5 入力目的の特定 ¹⁾	AA
1.4 判別可能	
1.4.1 色の使用	A
1.4.2 音声の制御	非干渉 A
1.4.3 コントラスト (最低限)	AA
1.4.4 テキストのサイズ変更	AA
1.4.5 文字画像	AA
1.4.10 リフロー ¹⁾	AA
1.4.11 非テキストのコントラスト ¹⁾	AA
1.4.12 テキストの間隔 ¹⁾	AA
1.4.13 ホバー又はフォーカスで表示されるコンテンツ ¹⁾	AA

2 操作可能

2.1 キーボード操作可能	
2.1.1 キーボード	A
2.1.2 キーボードトラップなし	非干渉 A
2.1.4 文字キーのショートカット ¹⁾	A
2.2 十分な時間	
2.2.1 タイミング調整可能	A
2.2.2 一時停止、停止、非表示	非干渉 A
2.3 発作と身体的反応	
2.3.1 3回の閃光、又は閾値以下	非干渉 A
2.4 ナビゲーション可能	
2.4.1 ブロックスキップ	A
2.4.2 ページタイトル	A
2.4.3 フォーカス順序	A
2.4.4 リンクの目的 (コンテキスト内)	A
2.4.5 複数の手段	AA
2.4.6 見出し及びラベル	AA
2.4.7 フォーカスの可視化	AA
2.4.11 隠されないフォーカス (最低限) ²⁾	AA
2.5 入力モダリティ ¹⁾	
2.5.1 ボインタのジェスチャ ¹⁾	A
2.5.2 ボインタのキャンセル ¹⁾	A
2.5.3 ラベルを含む名前 (name) ¹⁾	A
2.5.4 動きによる起動 ¹⁾	A
2.5.7 ドラッグ動作 ²⁾	AA
2.5.8 ターゲットのサイズ (最低限) ²⁾	AA

3 理解可能

3.1 読み取り可能	
3.1.1 ページの言語	A
3.1.2 一部分の言語	AA
3.2 予測可能	
3.2.1 フォーカス時	A
3.2.2 入力時	A
3.2.3 一貫したナビゲーション	AA
3.2.4 一貫した識別性	AA
3.2.6 一貫したヘルプ ²⁾	A
3.3 入力支援	
3.3.1 エラーの特定	A
3.3.2 ラベル又は説明	A
3.3.3 エラー修正の提案	AA
3.3.4 誤り防止 (法的、金融、データ)	AA
3.3.7 冗長な入力項目 ²⁾	A
3.3.8 アクセシブルな認証 (最低限) ²⁾	AA

4 堅牢 (robust)

4.1 互換性	
4.1.1 構文解析 (廃止・削除)	
4.1.2 名前 (name)・役割 (role)・値 (value)	A
4.1.3 ステータスメッセージ ¹⁾	AA



本日のお話（まとめ）

1. Webアクセシビリティってなんですか？
2. Webアクセシビリティのガイドライン
3. Webアクセシビリティと社会状況／法規制について
4. Webアクセシビリティの取り組み方
5. 今後のWebアクセシビリティの動向

ウェブアクセシビリティ基盤委員会について



ウェブアクセシビリティ基盤委員会
1,247 件のポスト

Web
A ccessibility
I nfrastructure
C ommittee

WAIC

ウェブアクセシビリティ基盤委員会
@waic_jp

ウェブアクセシビリティ基盤委員会（WAIC: Web Accessibility Infrastructure Committee、通称「ウェイク」）は、Webアクセシビリティの国内規格であるJIS X 8341-3の理解と普及を促進するための、さまざまな活動に取り組んでいます。

waic.jp 2013年4月からTwitterを利用しています

@waic_jp



ご視聴ありがとうございました。

続けて

「企業・組織におけるWebアクセシビリティ向上」
セッションも併せて御覧ください。



ウェブアクセシビリティ基盤委員会

企業・組織における Webアクセシビリティ向上

- 私たちがWebアクセシビリティに取り組む理由 -

企業の様々な
取り組み方を
ご紹介します！

